

糸魚川市民図書館のあり方に関する報告書

令和8年1月

糸魚川市図書館あり方検討委員会

【目次】

I	はじめに	1
II	現状	2
1	図書館の設置状況	2
2	図書館の利用状況	2
III	課題	3～9
1	図書館窓口アンケート	3
2	各部会での課題の調査	3
3	図書館の現状及び将来人口の推計と目標基準例との比較	7
4	見えてきた課題	8
IV	提言	10～15
1	基本コンセプト（将来の図書館像）	10
2	整備の方向性（3館の体系）	14
3	整備の方法	15
	糸魚川市図書館あり方検討委員会の歩み	16
	糸魚川市図書館あり方検討委員会委員名簿	17

I はじめに

図書館は、「本を読む」「本を借りる」「本で学習する」「本で調べものをする」といった様々な側面を持った施設です。また、図書館は、それだけではなく、本のある空間、居場所を提供する役割もあり、本を通じたコミュニケーションや新たな創造が生まれる可能性を秘めた場所でもあります。

糸魚川市には、市民図書館、能生図書館及び青海図書館の三つの図書館があります。「図書、記録その他必要な資料の収集、整理、保存をして一般の利用に供し、利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資すること」を目的に、合併前の旧糸魚川市、旧能生町及び旧青海町に1館ずつ設置され、現在もその状況を維持しています。

近年、図書館の利用者数は減少傾向にあり、各施設は老朽化による不具合が現れはじめてきています。現状の問題点から課題を見出し、それらに対する方策を検討することは、これから先の図書館のあるべき姿を考える上で重要なこととなります。

避けようのない人口減少を受け入れながらも、変わらずに読書の価値を提供し続けるため、社会の変化に対応した図書館サービスの見直しと、将来を見据えた整備が急務となっています。

このような状況を踏まえ、今後の図書館に求められる機能や役割、3館体制の可否を含む図書館の体系や建物の整備方針等を検討し、糸魚川市における将来の図書館像の土台を作るため、糸魚川市図書館あり方検討委員会を設置し、検討を行ってきました。その結果をここに報告します。

II 現状

1 図書館の設置状況

区分	所在地	建築年（経過年数）	延床面積	構造	階層
市民図書館	一の宮一丁目2番3号	昭和56年（44年）	1,566.01㎡	RC造	3
能生図書館	能生1941番地2 （能生生涯学習センター内）	昭和50年（50年） 平成23年（14年）改修	582.50㎡	RC造	1
青海図書館	青海4657番地3 （青海総合文化会館内）	平成8年（29年）	523.00㎡	RC造	1

- 市民図書館
昭和56年3月に現在の場所に建設され、同年7月に開館しました。
建築後40年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいます。
- 能生図書館
平成7年4月に能生児童館2階に図書館を開館し、平成23年4月から現在の能生生涯学習センター1階に移転しました。
- 青海図書館
平成8年4月に青海総合文化会館内に開館し、現在に至ります。

2 図書館の利用状況

図書館の貸出利用者数と貸出点数の推移は、次のとおりです。
人口減少や社会生活の多様化による読書離れ等から、図書館の利用は減少傾向にあります。

○ 貸出利用者数 (単位：人)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
市民図書館	32,494	28,239	28,214	26,426	24,607	22,828
能生図書館	10,376	8,931	8,880	8,447	8,067	7,660
青海図書館	16,741	14,322	14,449	13,397	12,806	11,928
合計	59,611	51,492	51,543	48,270	45,480	42,416

○ 貸出点数 (単位：冊)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
市民図書館	126,830	114,300	117,323	105,132	95,017	88,608
能生図書館	35,994	30,366	31,062	29,729	30,289	27,796
青海図書館	68,018	62,348	62,967	54,038	50,331	47,216
合計	230,842	207,014	211,352	188,899	175,637	163,620

Ⅲ 課題

1 図書館窓口アンケート

市民図書館、能生図書館及び青海図書館（以下「市内公共図書館」という。）において、利用者アンケートを実施しました。

このアンケートは、主に窓口業務サービスの評価を測るために実施したもので、図書館職員の接遇は「おおむね満足」という結果でした。

市内公共図書館について、「あまり良くない」「悪い」と回答した人の主な理由は、施設に関することが多く、特に老朽化が進む市民図書館に関する意見が目立ちました。

主な意見は、次のとおりです。

- ・ ゆっくり本を読むスペースが少ない。
- ・ 館内が暗く、狭い。
- ・ 本が少ない。
- ・ 館内でリラックスして過ごせる場所がほしい。

2 各部会での課題の調査

1の図書館窓口アンケートを踏まえ、次の三つの部会に分かれて課題の調査と整理を行いました。

区 分	内 容
こども部会	こどもが本に親しめる活動を考える視点で検討する。
ユニバーサルデザイン部会	誰もが使いやすい図書館を考える視点で検討する。
みんなの図書館部会	多くの人が訪れたい図書館を考える視点で検討する。

各部会の調査結果は、次のとおりです。

(1) こども部会

こども部会では、こどもたちの読書活動の実態を知るため、市内小学2年生及び5年生とその保護者を対象としたアンケート調査を実施しました。また、小学校、中学校及び高等学校の図書室を見学し、実際に児童生徒に対するインタビューを行いました。

【アンケート調査から】

アンケート調査に回答した児童のうち、7割弱の児童は、読書が好きと回答しました。

一方、1日のうち本を全く読まないと回答した児童は平日で2割強、休日で約4割にのぼり、本を読まない理由として、他のこと（遊び、ゲーム、勉強等）をしていると回答した児童は約6割、本が苦手、読みたい本が分からない等と回答した児童は3割強という結果になりました。

また、本を読むきっかけとして、家族や身近な人からのお勧めや、家の中の手に取りやすいところに本が置かれているという回答が見られ、何らかの外的な働きかけが、読書につながっている傾向がみられました。

保護者の回答からは、市内公共図書館について「蔵書数が少ない」「ゆっくりできるスペースがない」「遠い」「交通手段がない」といった課題が挙げられ、また、市内公共図書館を利用しない理由としては、「忙しい」「行く時間がない」といった意見も見られました。

【学校図書館の見学及び児童生徒へのインタビューから】

小学校の図書室では、学校司書による様々な取組により、こどもたちが図書室へ足を運ぶ仕掛け（スタンプラリー、スクラッチカード等）がされていました。また、学校司書がこどもとコミュニケーションを取りながらお勧めの本を紹介していました。

小学校の児童は、学区外に児童だけで行くことができません。市内公共図書館が学区外に存在する学校も多いことから、こどもたちにとっては学校の図書室が身近な図書館となっています。

中高生は、市内公共図書館の利用が少ない傾向にあります。今回のインタビューから、中高生は勉強できる場所を求めていることが分かり、中高生にとって市内公共図書館は、学習スペースとしての利用価値が高いことが分かりました。

また、SNSでのイベント情報発信やスマートフォンでの空室確認ができると良いという意見が聞かれました。

【糸魚川市の図書館の現状】

- ・ 蔵書冊数が少ない（特に中高生向け）。
- ・ 本を読めるスペースが少ない。
- ・ 学習できるスペースが少ない。
- ・ 中高生向けのイベントがない。
- ・ 遠い（学区外には行けない。）。
- ・ スマホ等で利用状況の確認ができない。

(2) ユニバーサルデザイン部会

ユニバーサルデザイン部会では、有識者を講師として招いた勉強会と他市の図書館の視察を行いました。

【勉強会から】

図書館に必要な福祉的な視点を学ぶため、地域生活支援センターこまくさの管理者を講師として招き、「障害がある方が利用しやすい図書館とは」というテーマで講義いただきました。

障害のある人への合理的配慮や障害特性についてお話いただき、障害を理解することにより適切な対応ができること、障害への理解度がいかに重要であることを学びました。

また、市民図書館の設備について、福祉的な視点で問題点を話し合い、「案内表示が不足していること」「車椅子の方が利用しにくいカウンターの様になっていること」「授乳室やおむつ替えスペースが不足していること」等、具体的な改善箇所を確認しました。

【視察から】

近年注目を集める図書館である、「学びの杜ののいちカレード（石川県野々市市）」、「石川県立図書館（石川県金沢市）」へ視察に行き、ユニバーサルデザインの視点から両施設を見学しました。

ユニバーサルデザインへの配慮として、優先駐車場を入口付近に配置し、屋根付きの通路を通してスムーズな入館が可能となっていました。

車椅子の方がそのまま利用できる奥行きのあるカウンターや、指差しボードの設置、オストメイト対応トイレ等、障害のある方や言葉の壁がある方への配慮がされていました。

また、こどもの背の高さに合わせた返却ポスト並びに授乳室及びおむつ替え室の設置、こどもが靴を脱いで上がれるスペースのそばに、保護者が見守りやすい向きで配置されたソファ、こども用の館内カートに高さのあるフラッグを付け、こどもがどこにいるか把握しやすいような工夫等、親子が利用しやすい配慮も多く見られました。

その他コミュニティバスの乗り入れ等、公共交通機関のアクセスの良さもありました。

【糸魚川市の図書館の現状】

- ・ 案内表示が分かりにくい。
- ・ おむつ替え、授乳室がない。
- ・ エレベーターの入り口が狭い。
- ・ オストメイトトイレがない。
- ・ 優先駐車場がない。
- ・ カウンターの奥行がない。
(車椅子の方が使いにくい。)
- ・ 筆談ボードや指差しボードがない。

(3) みんなの図書館部会

みんなの図書館部会では、近年注目を集める先進的な図書館の視察を行いました。

【学びの杜ののいちカレード（石川県野々市市）の視察から】

学びの杜ののいちカレードは、図書館と生涯学習センターの複合施設です。

建物の中央部分に図書館機能を置き、同じ空間の外側に音楽室やキッチンスペース等を配置することで、図書館をきっかけに多様な活動へ誘導する仕掛けとなっています。

館内には「見せる閉架書庫」としてシンボリック的存在となっている「本のタワー」を設置し、児童書コーナーには吊り下げ式の布で空間を仕切ること、中の様子が分かり、出入りしやすいよう工夫されたイベントスペースがありました。

図書は従来型の分類法に従って配置し、各所にテーマを設定した棚を配置することで、利用者の興味を引く構成となっていました。

運用面ではICタグを導入し、自動貸出、返却システムを採用することで業務の効率化を図り、レファレンス等の対応に注力していました。

将来対応として、10年後の利用環境を見据えて縮小する、又はなくなる見込みのある機能は建築段階で盛り込まず、簡易的な設えに留める等、利用方法の変化に柔軟に対応できるように工夫されていました。

【石川県立図書館（石川県金沢市）の視察から】

石川県立図書館は、県立図書館として全国トップクラスの来館者数を誇ります。

円形劇場のようなユニークな建物や「百脚繚乱」の閲覧席を謳う様々な家具が利用者の目を楽しませ、12のテーマを切り口に選りすぐられた本棚は、ウィンドウショッピングのように本との出会いを演出する仕掛けとなっています。

館内はおしゃべり可となっており、静かな環境で読書や勉強に没頭したい方には「サイレントルーム」を用意しており、こどもエリアにはアスレチックや食事スペース等があり、親子で楽しく過ごすことができます。

床は汚れても拭きやすい素材を採用し、他のエリアと区切って配置することで、こどもたちが伸び伸びと活動できる空間となっています。

大きな特徴は500席もの閲覧席で、館内のいたるところに多種多様な椅子が配置され、開放感のある空間やこもり感のある空間等、訪れる人にピッタリの居場所が見つかりそうな閲覧席となっていました。

【糸魚川市の図書館の現状】

- ・ 本がどこにあるか探しにくい。
- ・ 本を読めるスペースが少ない。
- ・ 学習室の利用のハードルが高い。
- ・ おしゃべり不可、飲食不可で不便。
- ・ 開館時間に行けない。
- ・ 本に興味がないと利用しない。

3 図書館の現状及び将来人口の推計と目標基準例との比較

日本図書館協会は、望ましい図書館の目標基準例^{※1}を示しており、次の表は糸魚川市の図書館の現状と当該目標基準を比較したものです。

令和7年3月末現在の糸魚川市の図書館の状況を見ると、人口規模に対して図書館数は多いものの、3館合計の延べ床面積はほぼ基準並みとなっています。

糸魚川市の人口は、令和22年には3万人を下回ると予測されています（※国立社会保障・人口問題研究所による人口推計より）。この人口規模に該当する目標基準と現在の状況を比較すると、図書館数、延べ床面積、蔵書冊数共に大きく基準を上回っています。

蔵書冊数は、現在の人口規模、将来の人口規模共に基準値以上となっています。しかし、年間の図書購入冊数はいずれも基準値を大きく下回っており、蔵書数は高水準でありながらも、新陳代謝が図られていない状況であることが分かります。

区分	令和7年3月末現在の状況				日本図書館協会が定める 目標基準例	
	市全体	糸魚川 地域	能生 地域	青海 地域		
人口（人）	37,617	23,790	7,011	6,816	[現状] 30,001 ～40,000	[将来] 20,001 ～30,000
図書館数（館）	3	1	1	1	1.6	1.4
図書館占有床面積（㎡）	2,671.51	1,566.01	582.50	523.00	2,433.50	1,850.10
蔵書数（冊）	250,891	113,410	57,994	79,487	220,523	153,590
図書年間購入数（冊）	3,735	1,746	952	1,037	8,753	6,849

※1 目標基準例：「日本の図書館2011」（日本図書館協会編）を基に同協会が作成した、各図書館の設置及び運営基準の参考例となるもの。『「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の告示について（通知）』（平成24年12月19日付け24文科生第572号）の中で、『目標の設定に当たっては、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準について」（平成24年8月これからの図書館の在り方検討協力者会議）に掲載されている「目標基準例」（日本図書館協会作成）も参考にしつつ、数値で設定することのできるものはできる限り数値目標とすること。』と記載されている。

4 見えてきた課題

各部会による調査結果及び目標基準例との比較等から、様々な現状の問題点が浮き彫りとなりました。糸魚川市民から求められる図書館像を描くため、解決すべき課題を次のとおり整理しました。

【旧態依然の図書館】

従来、図書館は静粛であるべき場所であり、その静かさが図書館らしさでもありました。しかし、乳幼児を連れた保護者や友人と共に学習したい学生等にとって、この静かさはときに利用のハードルになっていました。

近年、おしゃべりや飲食が可能なエリア、豊富な閲覧席、学習スペースやフリースペースを整備する図書館が増え、図書館の利用方法が少しずつ変わってきています。

糸魚川市の図書館も、時代に合った変化が求められています。

【新しい使い方と昔ながらの魅力の共存】

視察先の図書館では、従来の図書館機能に加え、居場所としての機能、新たな知との出会いを創出する機能、コミュニティ活動につなげる機能等、様々な付加価値を提供していました。

これらの機能を備えることは、これまで図書館を利用してこなかった方々に対し、利用を促す有効なアプローチとなると考えられますが、糸魚川市の図書館は、このような機能を備えていません。

一方で、従来どおりの分類法により整然と並べられた書架、静かに読書に集中できる空間等、図書館らしい機能も維持すべき重要な部分であり、これらの共存の実現が課題といえます。

【更新性に乏しい蔵書】

日本図書館協会の定める目標基準例との比較から、蔵書冊数は基準値以上の水準でありながら、新たな図書の購入冊数が少なく、蔵書の新陳代謝が図られていない現状が分かりました。

新鮮で魅力ある本を市民に提供することを目指し、ニーズに合う本をいかに増やしていくか、及び全体の蔵書冊数をどのように管理していくかが課題です。

【ユニバーサルデザインへの対応】

ユニバーサルデザインの観点では、現在の図書館は不便な点が多いと言わざるを得ません。図書館を改修又は新築をする際は、バリアフリーや合理的配慮への対応や、誰もが快適に利用できる環境づくりが必要です。

あわせて、図書館職員が合理的配慮やユニバーサルデザインへの理解を深めることも欠かせないものであり、職員の更なる資質向上も重要です。

【居住地から図書館までの距離的障壁】

図書館が遠くて利用できないという課題に対しては、図書館機能の分散が考えられますが、コスト面の負担が大きく、その実現には疑問符が付きます。そのため、電子書籍の導入は、アクセス格差解消の手段の一つとして検討すべき課題といえます。

あわせて、保護者の送迎がなくては市内公共図書館を利用できない子どもたちへの対応についても検討が必要です。

【三つの図書館の整理】

目標基準例との比較から、将来的に推計される糸魚川市の人口規模において、図書館数、延床面積共に基準値以上であることが分かりました。

これは、目標基準以上の図書館サービスを提供できると捉えることもできる反面、人口減少等の影響により縮小していく糸魚川市の財政状況を鑑みると、負担が大きいと捉えることもできます。

市内公共図書館をどのように整理していくかが課題です。

【公共施設の効率化】

公共施設の効果的な管理においては、「スペースの共有」という視点は見過ごせません。視察先の図書館では、生涯学習センターとの統合や、公民館、地域事業との連携を図る等、複数の機能を集約し、スペースの共有を実現していました。

しかし、複合施設は経費削減を目的とすることが多く、資料収集や専門的な職員を配置する図書館本来のサービスが低下するおそれもあり、慎重な検討が必要です。

IV 提言

前述の課題を踏まえ、糸魚川市民にふさわしい図書館のあり方を次のとおり提言します。

1 基本コンセプト（将来の図書館像）

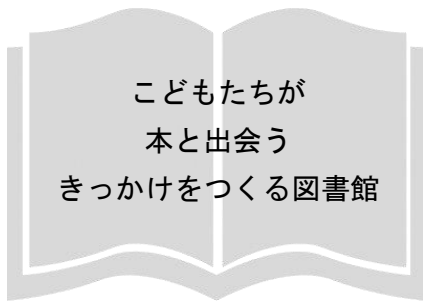
『 未知と出会い、自分の世界が広がる図書館 』

未だ見ぬ世界への入り口となり、多様な読書体験を通じて、自分の世界を広げることができる図書館の実現を望みます。図書館が魅力的な本との出会いのきっかけをつくることで、利用者は多くの物語や情報に触れることができます。それによって新たな知識を得たり、様々な感情を経験したり、思考や空想を巡らせたりすることは、結果として学びや心の豊かさを育むことにつながります。

図書館を単なる資料提供の場にとどめず、利用者にとっての居場所としての機能を高め、誰もが快適に滞在できる環境を整備するとともに、これまでの枠組みにとらわれず、図書館サービスを享受できる仕組みを整えることで、時間や距離といった制約を超えて読書に触れられる環境を実現し、より多くの人の本の世界に親しむことが期待されます。

図書館は、自由な読書と学習の双方を支え、市民の交流の場として機能し、多様なスタイルに応じた全ての人の居場所となることが望まれます。

このような図書館を実現するために、次の三つの機能と役割を有する図書館を目指すべきと考えます。



ブックスタートや図書館イベントの実施等で幼少期から本に触れるきっかけをつくり、こどもたちが魅力的な本に出会えて、自由に過ごせる図書館の実現を目指す。

本に対する「難しい、堅苦しい」という印象を、「自由で楽しい」という印象に変えていくため、こどもたちが読書をより身近に、かつ、自由に楽しめる環境の整備が必要です。

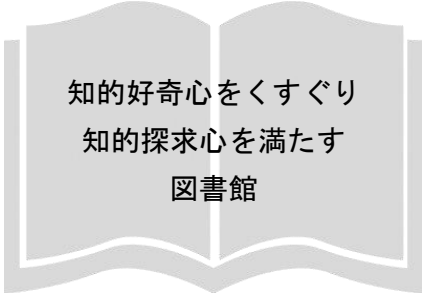
親子が絵本に触れるきっかけとなるブックスタートやおはなし会等、こどもたちに向けたイベントを充実させるとともに、おしゃべりや飲食ができて、気兼ねなく過ごせる空間を整えることで、こどもたちと本の世界をつなぐことができます。

また、保育園や幼稚園の絵本コーナー及び学校図書館は、こどもたちにとって身近な図書館であり、それらを充実させることによって、こどもたちがより多くの本に触れる機会を生み出し、読書活動の支援につながります。

保育園や幼稚園、学校との連携により、本やイベントの情報を多くのこどもたちやその家族に届けることで、市内公共図書館との心理的な距離を解消したり、図書館が行う団体貸出の利活用を推進して、身近な場所で市内公共図書館の本が読めるようにしたりする等、こどもたちが本を身近に感じるためのサポート体制の強化が必要です。

(具体的な事項)

- ・ おしゃべりをしながら自由に過ごせる空間の整備
- ・ 親子で楽しめるスペースの整備
- ・ 興味を引く仕掛けや書架づくり
- ・ 飛び出す絵本等、特徴のある図書の展示
- ・ こどもや中高生向けの図書のテーマ展示
- ・ ブックスタートや読み聞かせの実施
- ・ こどもや中高生に特化した図書館イベントの実施
- ・ 保育園や幼稚園、学校と連携した図書の紹介やSNSを通じた情報発信
- ・ 市内公共図書館と学校図書館のシステム連携



知的好奇心をくすぐり
知的探求心を満たす
図書館

思わず手に取りたくなるような本の展示と、本を探しやすい整頓された書棚を備え、みんなの知的欲求に応えられる充実した本が並ぶ図書館の実現を目指す。

利用者が本を身近に感じ、新たな資料との出会いを促進する環境を整えるには、利用者の好奇心に応えるテーマに沿って選書した本を展示し、魅力的な本を紹介することが必要です。利用者が偶発的に素晴らしい本と出会うことにより、読書活動が活性化し、図書館の利用満足度の上昇につながっていきます。

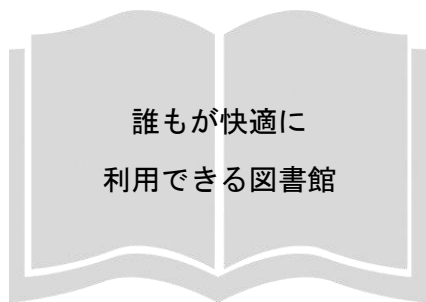
書架の並びは請求記号による配置を基本とし、本を探しやすいような配列と案内表示の工夫が求められます。あわせて、郷土に関する資料をはじめとした専門的な資料の充実により、深く学びたいという利用者の探求心に応えることが期待されます。

蔵書冊数や開架冊数は、目標基準例を参考に同規模自治体の実績と照らしながら、適正に管理していく必要があります。市民のニーズに合う資料や有益で新しい情報を積極的に収集しながら、蔵書としての必要性を見極め、新鮮で魅力ある書架を整備することが望まれます。

また、市民により多くの資料を提供するため、年間図書購入冊数が目標基準例に近づくよう、努力しなければなりません。

(具体的な事項)

- ・ 幅広い分野の図書の収集
- ・ 季節や流行に合った展示テーマの設定及び展示
- ・ 表紙を見せる陳列等、利用者の興味を引く展示方法の採用
- ・ 本を探しやすく、新たな本と出会いやすい展示及び配置
- ・ 各館で所蔵する資料の配置の最適化
- ・ 図書館ごとの特色出し
- ・ 図書館を活用したイベントや新刊図書の紹介等の情報発信
- ・ 図書コンシェルジュの設置
- ・ 新刊図書、開架図書の充実
- ・ 郷土の歴史や文化に関する資料の保存



赤ちゃん連れの方も、車椅子の方も、文字を読むのが苦手な方も、開館時間に利用できない方も、みんなが利用しやすい図書館の実現を目指す。

全ての人々が安心して利用できる施設を実現するためには、子育て世代や高齢者、障害のある方を含む様々な利用者に配慮した環境整備や合理的配慮の推進が必要です。

例えば、授乳室やおむつ替えスペースの設置や、雨に濡れずに駐車場から館内に入れる導線の確保、ピクトグラム^{※2}等の分かりやすく統一された案内表示等、ユニバーサルデザインを十分に考慮した様々な整備が必要です。

そして、読書補助器具の整備やLLブック^{※3}の収集等、読書のバリアフリーを実現するためのサポートを充実させる必要があります。

また、閉館後も利用可能な予約本受取スペースの設置により、開館時間に縛られない利用を可能にし、電子書籍の導入により、紙の本と電子の本から自分に合ったものを選択できるようにする等、多様な利用形態の提供が望まれます。

あわせて、ICTの活用により学習室の利用状況の確認ができる等、利便性を高め、誰もが快適に利用できる公共施設としての機能強化が期待されます。

(具体的な事項)

- ・ 多様なニーズに対応した接遇の推進
- ・ 幅広い世代が安心して利用できる施設設計と環境整備
- ・ 公共交通機関によるアクセスの整備
- ・ 住民同士の交流の場の設置
- ・ 会話ができるスペースと静かに学習や読書に集中できるスペースの設置
- ・ フリースペースの設置
- ・ カームダウンルーム^{※4}の設置
- ・ 飲食スペースの設置
- ・ セルフサービスのカフェの設置
- ・ 予約本の受取スペースの設置
- ・ 読書補助アイテムの設置
- ・ 優先駐車場の設置
- ・ 電子書籍サービスの実施
- ・ スマートフォン等での利用状況確認の整備

※2 ピクトグラム：伝えたいことをシンプルな絵や図で表した視覚的な記号。直感的に理解できるように作られており、案内表示等に広く利用されている。

※3 LLブック：「LL」はスウェーデン語の「レットラスト」の略で、「やさしく分かりやすい」という意味。文字を読んだり、内容を理解したりすることが苦手な人がやさしく読めるよう、写真、絵、絵記号等を用いて分かりやすい文章で書かれている本

※4 カームダウンルーム：光や音などの感覚の刺激を遮断することでストレスを軽減し、パニックの回避やクールダウンに使用できる空間

2 整備の方向性（3館の体系）

糸魚川市全体の図書館の規模は、将来の推計人口に応じた日本図書館協会が定める目標基準例に照らし、適正になるように努力することが必要です。

区分	日本図書館協会が定める 人口2万1人～3万人の目標基準例 〔※糸魚川市の令和22年の推計人口 27,605人〕
図書館数（館）	1.4
図書館占有床面積（㎡）	1,850.10

令和22年の糸魚川市の推計人口の規模に応じた図書館数の目標基準は、1.4館です。人口規模から考えると3館の維持は基準値以上であり、図書館数の削減も考えられますが、糸魚川市は、生活圏が広範囲であるため、糸魚川地域、能生地域及び青海地域の各地域に一つの図書館又は図書スペース等の設置が適当と考えます。

しかし、将来的な財政負担の軽減を考え、ICT化を進め業務効率化を図る等、運営面での工夫によるコスト削減が必要です。メインの図書館機能を1館に集約し、移動図書館を運用することも選択肢の一つとして挙げられます。

身近な図書館を実現するため、中心拠点と分散型サービスの組合せによる効果的かつ持続可能な整備を進める必要があります。

また、占有面積は目標基準例を参考に、必要な機能を備えることが可能な範囲でスリム化していくことも必要であると考えます。

3 整備の方法

能生図書館及び青海図書館は、複合施設内に設置されていることから、当分の間は既存施設の必要な改修を行い、図書館活動を推進することが望ましいと考えます。

市民図書館は、図書館のメイン機能の充実を図るため、将来の財政状況を考慮し、整備の検討を進める必要があります。市民図書館の整備方法として、次の三つの可能性を考え、検討の優先順位を設定しました。

優先順位	整備方法	特に留意すべき点
第1順位	既存図書館の改修	十分な閲覧席や学習室、飲食スペース等を確保するため、内部レイアウトの変更が必要になります。 また、優先駐車場、授乳室やおむつ替えスペースの整備等、利用者の利便性に配慮した改修が必要です。 あわせて、老朽化が目立つ外壁や屋上等の改修が必要です。
第2順位	空き施設の活用	図書館機能を移管できる十分な広さや立地条件を備えた空き施設を選定し、耐震補強が必要な場合は、改修工事を行う必要があります。 小規模な空き家の活用を検討する場合は、建物の管理方法や、配置する図書の選書の検討が必要です。
第3順位	新図書館の建設	将来を見据えたコンパクトな建物を検討するとともに、意匠性に偏りすぎない設計が求められます。 立地は市民が集いやすく、適切な面積が確保でき、アクセスのしやすさを考慮した場所を選定する必要があります。

より良い読書環境の整備をスピード感を持って進めるため、実行性の早さやコスト面等から、現在の市民図書館を改修する案が最も実現の可能性が高いと考えました。

今後は、図書館の整備体制を具体的に形作る「糸魚川市図書館整備基本構想」を、本提言を基に作成する必要があります。その際は、次の事項について調査及び検討し、その費用対効果、実現性、実行スピード等を総合的に判断して、最終的な整備方法を決定することが望まれます。

- (1) 提言のコンセプトや「具体的な事項」を盛り込んだ建築概算費用
- (2) 空き施設及び新設候補予定地の絞り込み並びに用地及び建築物取得等にかかる費用
- (3) 立地適正化計画との整合性の判断及び都市構造再編集中支援事業の活用
- (4) 「既存図書館の改修」を選択した場合の改修期間中の図書館対応
- (5) 「空き施設の活用」又は「新図書館の建設」を選択した場合の既存図書館の活用方法
- (6) 複合施設として整備する場合のメリット及びデメリット並びに本提言の実現性

糸魚川市図書館あり方検討委員会の歩み

実施日	内 容
令和6年4月1日	糸魚川市図書館あり方検討委員会設置要綱制定
令和6年7月1日	委員委嘱
令和6年8月9日	第1回委員会 場所：糸魚川市役所 (協議事項)・糸魚川市の図書館の現状共有 ・あり方検討委員会の進め方について
令和6年10月25日	第2回委員会 場所：糸魚川市役所 (協議事項)・図書館について「こうだったらいいな」と思うこと。 ・部会の活動内容の決定
令和6年11月19日 ～12月13日	こども部会の活動 市内小学2年生、5年生と保護者を対象としたアンケートの実施
令和6年11月28日	こども部会の活動 場所：田沢小学校 図書室の見学、小学生及び学校司書へのインタビュー
令和7年1月9日	こども部会の活動 場所：糸魚川中学校 図書室の見学、中学生及び学校司書へのインタビュー
令和7年1月17日	ユニバーサルデザイン部会の活動 場所：糸魚川市役所 講師を招いての勉強会 (講師) 地域生活支援センターこまくさ管理者 (内容)・障害特性について ・合理的配慮とは ・図書館における合理的配慮の例
令和7年1月29日	こども部会の活動 場所：糸魚川高等学校 図書室の見学、高校生及び学校司書へのインタビュー
令和7年3月6日	みんなの図書館部会、ユニバーサルデザイン部会の活動 先進地視察 (視察先)・学びの杜のいちカレード (石川県野々市市) ・石川県立図書館 (石川県金沢市)
令和7年6月30日	第3回委員会 場所：能生生涯学習センター (協議事項)・部会の活動報告 ・望ましい図書館像のコンセプトについて
令和7年10月15日	第4回委員会 場所：糸魚川市役所 (協議事項)・報告書(案)について ・図書館としての空き家の利活用について
令和7年12月24日	第5回委員会 場所：糸魚川市役所 (協議事項)・報告書(案)について

糸魚川市図書館あり方検討委員会委員名簿

○ 任期 令和6年7月1日から令和8年6月30日まで

役 職	氏 名	選出区分	備 考
委員長	辻村 貴洋	有識者	上越教育大学大学院 准教授
副委員長	小山 智穂	各種団体を代表する者	読み聞かせボランティア団体 (親子文庫アイアイ代表)
委員	山本 裕美	教育関係者	幼稚園・保育園 (おひさま保育園長)
委員	池田 直美	教育関係者	糸魚川市教育研究会国語部会 (糸魚川小学校教諭)
委員	伊藤 麗美 (令和7年5月31日まで)	教育関係者	糸魚川高等学校司書
委員	白石 琴美 (令和7年6月1日から)	教育関係者	糸魚川高等学校司書
委員	佐藤 豪	教育委員会が必要と認める者	前能生中学校PTA会長
委員	川合 喜久雄	各種団体を代表する者	青少年活動団体 (糸魚川アクトキッズ)
委員	川合 真生	教育委員会が必要と認める者	私設図書館設置者

役 職	氏 名	備 考
事務局	川合 三喜八	糸魚川市教育委員会事務局生涯学習課市民図書館長
事務局	本間 正之	糸魚川市教育委員会事務局生涯学習課市民図書館長補佐
事務局	大西 かおり	糸魚川市教育委員会事務局生涯学習課市民図書館係主査

読書の大切さ

読書をする目的は、人によって様々であると思います。

勉強や仕事のため、あるいは教養を身に着けるため、小説などを読んで楽しい時間を過ごすためなど。

読書をすることで、著者が自分に語りかけてきて、そこからいろいろな対話が繰り広げられます。

本を通じた著者との対話は、自分の内面と対話につながり、本に書かれていることを読みながら、「自分の場合はどうだろう。」「ここに書かれていることは自分の過去のあのときと関連している。」「そういう考え方もあるのか。」などと、思いを一つずつ深めていく。

このような思考の作業は、読書をしているときに最もできるように思います。

正にここが読書の一番の良さであり、それによって精神的に成長できるのが最大のメリットであります。

人にとって読書は、本当に大切なものです。

糸魚川市教育委員会事務局 生涯学習課

〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮一丁目2番5号

TEL : 025-552-1511(代) FAX : 025-552-8292

E-mail : toshokan@city.itoigawa.lg.jp